

吉田南総合図書館 卒論・修論執筆応援キャンペーン2022

答えてくれた先輩たち

修論 Aさん(AA研)

修論 Bさん(人環)★

修論 Cさん(人環)

修論 Dさん(人環)★

修論 Eさん(人環)★

卒論 Fさん(総人)

卒論 Gさん(総人)

卒論 Hさん(総人)★

※★がついている方は論文の展示あり

※文中は敬称略

※文中のMは修士課程の意(例:M1=修士1回生)

※()内は執筆当時の所属

卒論・修論体験談2022

先輩たちは こうしました。

例年好評いただいたている卒論・修論体験談が今年も登場!どのように論文を執筆したか、先輩たちに当時のことを教えてもらいました。ぜひ参考に見てみてください。

先行研究探しのお手伝いや複写物・図書の取り寄せなど、図書館は執筆に取り組むあなたを全力でサポートします!調査・相談カウンターにご相談いただくか、Webサイトのチャットからお気軽に尋ねてください。

質問その1

テーマはどのように決めましたか?テーマを決めるまでにかかった時間はどのくらいでしたか?

A 修士1年目の夏にフィールドに行き、その結果を踏まえてテーマを決めたので入学から大体半年です。夏までに

◀ 大まかなテーマは(仮)で用意していました。実際に調査対象となる地域に行ってみて、テーマについて少し変更しましたが、大きくは変更ませんでした。

F 3回生の頃、ゼミで4回生の卒論中間報告を聞きながら自分のテーマを考えた。先生とも相談して決定した。3回生の春頃からテーマを意識し始め、4回生の前期に決まったと思う。

G 「これがやりたい!」という明確なものがなかったため、雑誌論文のタイトルや事典を読んだり、興味のあるキーワードを書き出したりしてテーマの候補を作りました。いくつかある候補の中で迷い、最終的にテーマを決めるまでには、3ヶ月程度かかりました。



質問その2

いつ頃から準備を始めましたか？

H 4回生の前期は院試対策のためにほとんど卒論は進まなかったのですが、院試が終わってからはいよいよ本格的に準備・執筆を始めました。

G 3回生の3月(4回生になる前の春休み)頃からテーマを考えはじめました。

A 調査は合計3回(合計6ヶ月)実施しました。M1の8~9月、2~3月、M2の8~9月です。なので、準備開始はM1の8月からでしょうか。

C 入学時から博士進学を希望していたことと、ほぼ生活圏内での調査だったこともあって、なんだかんだでずーっと修論のことを考えている状態でした。M1の5月か6月くらいに仮決め(7月にゼミで研究計画発表があるので)→フィールドワークを始める→調査の方向性を修正(M1の12月くらい)→修論で扱う範囲を切り出す(M3の4月)→10月くらいに調査切り上げ、執筆にかかる→1月初頭に締め切りという感じです。

質問その4

最初に何から始めましたか？

A 先輩、指導教官の書いた修論・博論をみて構成の参考にしました。構成ができた時点で、指導教官に相談した記憶があります。

D テーマにそった文献を集めました。研究対象の作家の作品と、関わる論文を出来るだけ収集しました。

E 最初はアウトラインを決めるところから始めました。「だいたいこのあたりを落とし所にしよう」というのを描いておいて、それに関連する文献を中心に読みました。

ただ、途中で何度もアウトラインは変更を迫られるのですが……

F 先生に読むべき本を教えてくださいました。

質問その5

論文作成で気を配ったところはどこでしたか？

B 説得力を持って分かりやすく開かれた文章が書けているかどうかということに常に気をつけました。卒論ではそこがうまくいかずに悔しい思いをしたので。またそのために、違う分野を研究している、専門でない多くの方にも読んでもらうようにしました。

D 論文の構成をしっかりと理解していなかったことがあり、構成には時間がかかりました。段落と段落の内容が繋がるように言葉にも気を付けました。

F 引用のやり方や脚注の書き方など、論文の形を整えること。

F 4回生の春から12月にかけて取り組んだ。

E 執筆は3ヶ月で行いました(10月~1月)。構成は9月ごろから練っていましたが、書いている途中で何度も変更しました。

C 章立てを具体的に考え出したのがM3の4月、実際の執筆に取りかかったのは10月くらいです。締め切りは1月7日でした。執筆開始時期は遅すぎなので、反面教師にしてください。

B 本格的に執筆し始めたのは11月初めからでした。これには理由があって、考察がうまくまとまらなかったことが挙げられます。ある程度終わりが見えてくるようになってから書き始めたいと思っていたのですが、これは失敗でした。書いているうちに着想は湧いて来るものなので、あまり最初に考えすぎなくても良かったなあと反省しています。

H 4回生10月から3ヶ月ほど。卒論は全3章構成でしたが、10月の最初にアウトラインを作った時は第2章までしかできていませんでした。11月の中間発表を終えて、方針的には問題なさそうだとわかったので、その後は第3章で話をどう落とすかを探りつつ、第2章の内容を補充・強化しました。1月に入ってからギリギリで第3章の内容が(したがって全体の構成が)完成しました。

質問その3

論文執筆にかかった期間は？

E 私はいわゆる文献解釈系の研究であるため、本さえ手に入れば外出制限は特に気になりませんでした。図書館が開いてなかった時期は虚無でした。

B コロナがなければポーランドに留学する予定でした。しかし世界はコロナと向き合わざるを得なくなりました。まず困ったのは、ポーランド語の資料が手に入らないということでした。ですが、吉田南総合図書館の資料取り寄せサービスで、コロナ禍にもかかわらず海外から多くの書籍や複写を取り寄せてくださり、どうにか研究を続けることが出来ました。

質問その6
コロナ禍で苦労したことは？
どう乗り越えましたか？

H 今はなき京都大学保健診療所。卒論で追い詰められていた時期には、気分が落ち込んだり不眠になったりしたのですが、そのとき直ちに医療と繋がれたのは幸運でした。

G 人と話すことです。一人していると煮詰まってくるので、同期や友達と話して気分転換していました。

D 修士論文を書く仲間と切磋琢磨できたこと。他に様々な学会発表をリモートだからこそ簡単に見る事ができたことです。海外の学生を含む研究者の発表も見ることが出来て、力になりました。

質問その7
執筆の間、一番助けになったことはなんですか？

心身の不調を感じたら、今なら例えば学生相談室に行くよといえます。

質問その9

文献管理はどのようにしていましたか？

A Mendeley を使っていました。最終的には自分でもともとExcel上に読んだ文献をまとめていたので、それも使っていました。

E Excelで管理をしていました。CONCATENATEなどの関数を使って、論文の「参考文献」としてそのまま貼れるよう、スタイルなども工夫していました。

C WorkFlowyというアウトライナーソフト(?)に、書誌情報と内容のメモをまとめて書いておきます。とにかく「管理」が苦手なので、「執筆」以前のメモ段階の思い付きなども、とりあえず全部ここに集約するようにしています。

B 参考になる箇所をコピーしてノートに貼ったり、書き抜いたりしていました。

H クラウド型のメモアプリ・サービスであるNotionを使っていました(無料)。Notionでデータベースを作り、気になる文献があったらそこに一つ一つ手入力で登録していました。データベースといってもそんなに構える必要はなく、直感的に操作できてExcelより簡単かもしれません。データベースの項目として日付やタグ付けなどが自由に追加でき、フィルター・ソートが自在にできるのも、推しポイントです。修士に進学して引き続き研究を行う場合や、扱う文献が大量にある場合などは、図書館機構が提供している文献管理ツールEndNote Basicを使うのがよいと思います。

(詳しくは次を参照。https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/erdb/13511)

質問その10

研究の醍醐味は何だと思えますか？

A 自分の好きなことや興味のあることが、何かしらの形で社会への貢献につながる可能性があること。そして、たとえ一人であっても「面白い」と言ってくれる人がいることで得られる喜びと達成感だと思っています。

F とても些細なことを奥深くまで探究してみると、想像以上に豊かな景色が見えてくること。

G 地道に進めていた作業やアイデアがながって、新しい発見があった時はうれしいです。また、分からないと言いつつ試行錯誤している時間も意外と楽しく感じています。

質問その11

アドバイスをお願いします

C 納得していない内容でも、文章が成立してしまっても、とにかく何でも書いておくこと！実際、雑なメモでもなんでも自分の文章の手駒を増やしておくこと、あとから意外なところでパズルのようにつまきはまっていたり、推敲を重ねる元手になったりします。

D 諦めずに最後まで書ききることです。後はライバルでも仲間がいるのがいいと思います。

E 指導教員には遠慮無く連絡・相談しましょう！「忙しいから」「こんなことで相談なんて」と遠慮していると、逆に先生方も心配すると思います。バシバシアタックをかけるべし。